



10月の園だより

今月の予定

平成 29年 10月 1日

さかえ保育園

1日(日)	
2日(月)	
3日(火)	季節の食材紹介(乳児)
4日(水)	体操教室
5日(木)	
6日(金)	
7日(土)	運動会
8日(日)	
9日(月)	(祝) 体育の日
10日(火)	誕生会 お箸練習(ゆり)
11日(水)	体操教室
12日(木)	包丁練習(ゆり)
13日(金)	包丁練習(れんげ)
14日(土)	
15日(日)	
16日(月)	粘土おにぎり作り(すみれ)
17日(火)	英語教室 季節の食材紹介(乳・幼児)
18日(水)	体操教室 南瓜の種取り(たんぽぽ) おにぎりパーティー
19日(木)	ポニー教室
20日(金)	包丁練習(れんげ)
21日(土)	
22日(日)	
23日(月)	きゃべつちぎり(つくし)
24日(火)	環境学習(幼児)
25日(水)	体操教室
26日(木)	お箸練習(れんげ)
27日(金)	包丁練習(ゆり)
28日(土)	
29日(日)	
30日(月)	ごほう洗い(すみれ)
31日(火)	英語教室

「お互いさま」の心の育ち

トラブルを通して相手にも思いがあることがわかります。

子どもは集団生活をする中で、3歳を過ぎる頃から、自分に「こうしたい」「こうしたくない」という思いがあるだけでなく、相手にも自分の思いとは違う「こうしたい」「こうしたくない」という思いがあることに、次第に気づくようになります。

3歳児のおもちゃの取り合いはお互いに必死で「だめ!」「いや!」というばかりで、あげくは双方とも泣いてしまうことがしばしばです。そんな時、保育者があいだに入って双方の言い分を聞くと、一方の子は「これは僕が後で使おうと思って、そばに置いといたのに」という思いだったことがわかり、他方の子は「君が使っていないから、僕が使おうと思った」という思いだったことがわかります。そこで、保育者が双方の言い分を相手にしっかり伝えると、なんとか双方が納得してトラブルが収まり、しばらくすると笑顔になって、また一緒に遊んでいるという場面がしばしばみられます。

こうした経験を通して、自分から「ごめんなさい」がいえるようになり、それに対して相手が気前よく「いいよ」といってくれるようになり、逆に相手が「ごめんね」というのに、自分が「いいよ」と応じられるようになって、次第に「お互いさま」の素地ができあがっていきます。

もちろん、トラブル以外にも、転んで痛がっている友達を心配したり、慰めたりという振る舞いも、相手の思いに気づく(共感する)からこそ生まれる行為ですが、思いと思いが衝突するトラブル場面ほど、お互いが違う思いを抱いていることに気づく大事な場面なのです。

運動会を前に、子ども達には相反する思いのぶつかり合いの中で「お互いさま」の気持ちが芽生え、一生懸命に練習しています。苦手なものに向かい合い友達同士で励まし合い、相手の思いに寄り添い共感し見える姿とは別に内面的にも成長している子ども達に応援よろしくお祈りします。

- 園長 -



給食より

お弁当作りについて

秋は美味しい食材がたくさん出てくる季節ですね。そんな行楽シーズンに、手作りのお弁当を持ってお出かけをはいかがでしょうか。夏場以外も食中毒に注意し、旬の食材をたっぷりと使ったお弁当を作ってみましょう。

《食中毒に注意したお弁当作りのポイント》

- ①手洗いをしっかりと! 調理の前や生肉・生魚を触った後は念入りに手を洗い、盛り付けする食品はあまり直接手を触れないよう菜箸を使い、おにぎりはラップに包むようにして作ると良いでしょう。
- ②しっかりと火を通す! お弁当は冷蔵保存したり、食べる前に加熱することが出来ない場合が多いので、しっかりと加熱してお弁当に細菌を残さないようにしましょう。
- ③ふたは冷めてから! お弁当の中身が温かいうちにふたをすると水蒸気が水滴となり細菌が増えやすくなってしまいます。十分冷ましてからふたをし、なるべく涼しくて陽の当たらないところに置いておきましょう。
- ④酢や梅干しのパワーを活用する! 酢や梅干し、生姜や大葉などは殺菌効果があります。ご飯を炊く時に酢を少し入れたり、梅干しを細かくしてご飯やおかずに入ると良いでしょう。

★お弁当を詰める時は、主食とおかずが1対1、おかずのうち、主菜と副菜が1対2の割合で詰めるのが理想的です。

★秋におすすめのお弁当例

主食：栗ご飯、さつまいもご飯、きのこの炊き込みご飯など

主菜：ささ身の梅肉はさみ揚げ焼き、鮭の南蛮漬け、秋刀魚の唐揚げなど

副菜：根菜のきんぴら、さつまいものレモン煮、南瓜茶巾など

保健より



2つの10を横に倒すと、まゆ毛と目の形に見えることから、10月10日は「目の愛護デー」です。

＜視力の発達の目安＞

新生児	明暗がぼんやりわかる	生後3か月	0.01~0.02
1歳	0.2~0.25	2歳	0.5~0.6
3歳	0.7~1.0		
4歳	1.0	5歳	1.0

※目は一生付き合っていく大切な器官のひとつです。子どもで気になる症状があるときは眼科を受診しましょう。

